



# 悟後の 修行(上) 上求菩提

柳 幹 康

「見性、すなわち己が本性たる仏の心を見て取った後は、かならず悟後の修行に進まなければならぬ。さもなくば魔道に堕ちてしまう」——これは白隠が何度も繰り返し強調することです。これから二回にわたり、悟後の修行について見てまいります。

白隠は「かえすがえすも今生において、励み求めるべきものは見性開悟の一大事である」と述べ見性を非常に重視しますが、一度の見性で全てが解決するわけではありません。なぜなら「見性には精粗・浅深の差がある」からです（『八重葎』巻三）。白隠は次のように述べています。

そもそも仏祖の教えは非常に奥深いものであり、一回や二回の開悟で極め尽くせるものではない。山は登れば登るほど高

くなり、海は潜れば潜るほど深くなるようなものだ。また世の鍛冶屋が鉄を鍛錬して刀を作るようなものだ。何度も火炉の中に入れ練り鍛えることが肝要である。用いる火炉は一つであるが、そこに何度も入れて繰り返し鍛錬しなければ、名刀を打ち出すことは難しい。参禅修行も同様だ。突破しがたき仏祖の火炉に（何度も）入り厳しい鍛錬を積まなければ、優れた智慧を發揮することなどできはしない。

（『四智辨』）

刀を何度も火炉に入れて練り鍛えるように、公案（禅の課題）を何度も用いて修行僧を鍛え上げるといふわけです。具体的には以下のように述べています。

（見性の）後には以下の公案をありありと見て取らねばならない。すなわち、「灯笼跳りて露柱に入り、仏殿走りて山門を出づ」、「人は橋上より過ぐれば、橋は流れて水は流れず」、「南に向かいて北斗を見る」等である。更にその次には最後の「向上の一著」（と称される公案）がある。これを「法窟の爪牙」「奪命の神符」とも呼ぶ。いわゆる疎山寿塔の因縁、南泉遷化の話、塩官犀牛の扇子、翠巖夏末の話、乾峰三種の病などである。これらの公案を逐一突破せよ。さすれば遠く離れた異郷で妻子に出会ったように（大きな喜びを得ることが）できよう。もしそれができないなら、真の優れた禅者とは言えない。

（『庵原平四郎物語「某居士に与う」』）

列挙される難解な公案のうち、疎山寿塔や南泉遷化等は白隱にとつて、二度目の大悟の契機となつたものです。白隱は無字により最初の大悟を得ましたが、後に師の正受によりその増上慢を粉碎され、新たにこれらの公案を授けられたのでした（『八重葎』卷三、『遠羅天釜』卷下）。いわば白隱は師の正受同様、弟子に対して、一度の開悟に慢心することなく、更なる公案参究により悟境を練り上げていくよう求めているのです。

その過程は「正念工夫」の相続とも称されます。「正念工夫」とは喜怒哀楽などの雑念が生じる前の状態を指します。白隱は言います、「（正念工夫を続けることは）容易ではない。……（心を研ぎ澄ませば研ぎ澄ますほど）日頃の雑念が次々と怒濤のように競い起こるからだ。これに臆することなく、万人の敵に

一人立ち向かうように、齒を食いしばつて覚悟を決め、勇猛に突き進んで見事撃ち破れ」（『夜船閑話』卷下）。

無数の公案に参究することで悟境を練り上げていくこと、換言すれば雑念を断ち本来の清らかな心を常に保ち続けること、これこそが「悟後の修行」がもつ二つの側面のひとつ「上求菩提」です。もうひとつの側面「下化衆生」については、次回見てまいります。

【主な参考文献】

- 柳田聖山『臨済の家風』（筑摩書房、一九六七年）。  
真流堅一「白隠禅における人間形成の思想」（『熊本大学教育学部紀要第二分冊 人文科学』二一、一九七二年）。

柳 幹康（やなぎ みきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所副所長・准教授。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究——一心による中国仏教の再編』（法藏館）。

# お願い

## 花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

\*ㄨ切りは毎月1日です。

## 『花園』へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64  
妙心寺派宗務本所内編集室  
俳壇／歌壇／花園 係

\*住所、氏名を必ずお書きください。

\*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

\*なお投稿はお返しいたしません。



「いつもココロに花園を」  
あなたとわたしのポケットエッセイ集

- 【花園】第70巻 第1号(通巻第821号)  
令和2年1月1日発行(毎月1日発行)  
定価55円
- 【発行人】栗原正雄  
【編集人】畠中寿浩  
【印刷人】喜田眞司
- 【発行所】〒616-8035 京都市右京区花園  
妙心寺派宗務本所 教化センター  
振替／01060-9-1400番  
電話／075-463-3121番

表紙の絵 「人の命は  
一呼吸の間にあり」



一呼吸に自分の心をこめて取り組むことが大切。たまには、余計な雑念・妄想を断って、一呼吸に集中する時間をもとう。 絵・花咲幸絵

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,560円(税・送料込)です。  
下記のお電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

\*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。